

配車管理



株式会社博運社

「職人技」の配車管理を
きめ細かく踏襲してシステム化

LANSA for the Webで配車表を統一化・共有化・標準化

毎日、大量で複雑な 配送案件をさばく

福岡空港のすぐ近く、福岡県糟屋郡に本社を構える博運社は、九州一円から名古屋以西までの西日本一帯に40の拠点網を敷く総合物流企業である。トラックは一般車・保冷車を含めて約450台、営業倉庫の延べ床面積は4万5000坪を有し、医薬品、住宅関連設備、食品、日用雑貨の4分野を柱に、貨物輸送と倉庫業を展開中である。とくに医薬品については九州でシェアNo.1を誇り、60社を超える医薬品メーカーの多種多様な物量に合わせて、卸売、店舗、病院などへの配送を行っている。

日本の物流市場は、1991年をピークに総輸送量が減少し続け、その一方、貨物輸送の事業者数に大きな変動がないため、競争が一段と厳しくなる状況にある。

そうしたなかで同社は、従来手動で行っていた配車管理のシステム化に着手した。

配車管理とは、荷主から配送の注文を受けると、どのトラックに荷物を積んで配送先に届けるか、荷物の量・種類・配送先などを考慮して、さまざまな車両タイプのなかからトラックを選定し、配送業務のスムーズな流れをコントロールする仕事である。そして、これには収支管理も含まれる。配車管理を担当する配車係は、運送事業所に1名

または複数名ずつ配置されている。

同社では、1社の荷主の荷物を1カ所または複数の配送先へ届ける「貸切」と、荷主が異なる荷物を1台のトラックに積み込み別々の場所に配送する「小口混載」を行っている。

この2つの配送では、荷主および荷物の種類・量、配送先が日々変動し、毎日、約450台の自社トラックと「備車」と呼ぶほかの運送会社のトラックがフル回転で荷物を配送している。

各拠点には毎日、荷主、荷物の種類・量、配送先が異なる受注伝票が、本社から大量に送られてくる。配車係はそれをさばいて配車管理を行っているのである。

「日々配送する荷物の90%はおおよそ固定していますが、残り10%はまったくの不透明で、その10%の荷物を組み合わせてトラックの稼働率・積載率を最大にするのが、配車係の腕の見せどころです。当社の配車管理は、長い経験と勘をもつ、配車係の職人技に頼っていました」と、IT戦略室の緒方 明室長は説明する。

従来の配車管理で 3つの問題が顕在化

しかし、その経験と勘に頼る管理方法で、いくつか問題が顕在化していた。

1つ目は、配車管理で使用する配車表のレイアウトが、営業所ごとに少しずつ異なり、それぞれ独自に運用されていたことである。そして2つ目は、紙やExcelの配車表への記入だったので、清算の際にあらためて基幹システムへ入力する2重入力になっていたこと、3つ目は、各配車係が独自の振り分け方でトラックを手配しており属人化していたことである。

そしてその結果として、作業全体の非効率性と2重入力などによるミスの発生、システム化されていないことによる問い合わせへのレスポンスの悪さ、などが目立ってきていた。

POINT

- 手動の配車管理でさまざまな問題が顕在化
- LANSA for the Webによるシステム化を実施
- 配車案件の収支管理も実現

TIME LINE

- 2015年：配車管理システムの検討を開始
- 2016年：LANSA for the Webによる開発がスタート
- 2016年：一通りの開発を完了。サービスインに向け調整中

COMPANY PROFILE

本社：福岡県糟屋郡
設立：1957年
資本金：8918万1300円
売上高：110億円(2013年12月)
従業員数：765名
事業内容：医薬品および一般貨物の物流サービス（運送・倉庫を含む）の設計・開発・提供、付帯サービスなど
<http://www.hus.co.jp/>

「そのなかで、とくに問題になっていたのは、配車係が小口混載案件の収支を把握せずに配車することがあり、収益性が悪化する場合があることでした」（緒方氏）

配車表のスタイルを そのままWeb画面化

システム化は2015年4月に検討が始まり、同年10月に地元・福岡の福岡情報ビジネスセンターへ発注。要件定義、設計へと進んで、ランサ・ジャパンのWeb開発ツール「LANSA for the Web」による開発が始まった。

LANSA for the Webを採用した理由について緒方氏は、「実績と使いやすさ、拡張性を評価しました」と話す。

要件定義では、使用中の配車表を詳しく分析した。紙やExcelの配車表は、1つの配送案件の内容をすべて1行に記載するスタイルである。日付、運行区分（一般・貸切）、荷主、荷受人、配送先、着手日時、個数、売上、備車への支払などの項目が右に続いていき、非常に横長である。

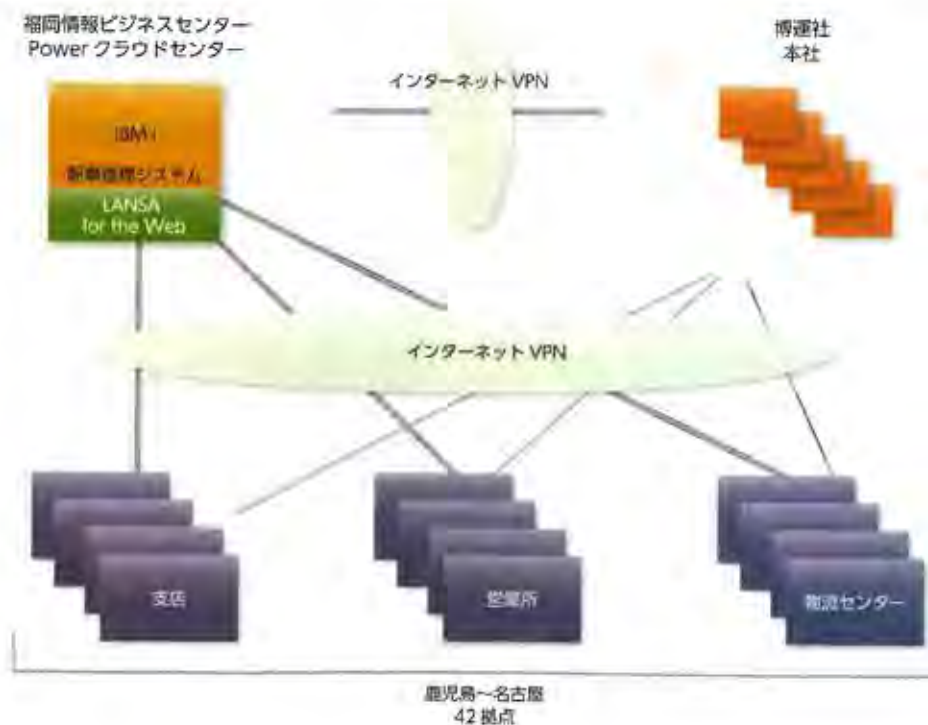
開発した配車管理システムの画面もそのレイアウト

を踏襲し、横に長い構成とした（隠れた部分はスクロールにより確認する）。そして、配送案件と車両との紐づけや、車両運行状況の照会画面などは別に用意し、相互に連携する仕組みとした。

配車管理システムの導入によって、配車表の統一化と配車データの共有化、配車処理の標準化が図られる、と同社では期待している。システムは一通り完成し、最終的な調整段階にある。

緒方氏は、「カットオーバーしたら、次はハンディターミナルを活用した荷物追跡システムに取りかかる予定です」と、抱負を語る。

図表1 配車管理システムの概要



緒方 明氏
IT戦略室
室長